

活動PR資料 2

SDGs QUEST 未来甲子園 東海大会 発表資料

この大会では、今回、応募した内容の一部を含めて発表し、審査員特別賞を受賞。

愛知県立佐屋高等学校科学部

2023年度



田んぼはみんなの宝

(農高生の田んぼ改革)

愛知県立佐屋高等学校科学部

12 つくる責任
つかう責任



1. 探究テーマとそれを選んだ理由



<探究テーマ>

田んぼはみんなの宝 農高生の田んぼ改革

【対象ゴール】

12 つくる責任
つかう責任



<そのテーマを選んだ理由>

稲作を変えたい！

稲作・農業従事者は大幅減

20年後には現在の **1 / 4** に (R4農水省)

コメ農家の **95%** が赤字 (R5三菱総研)

稲わらや籾殻でビジネスはできないか

そして

田んぼの価値を広めよう！

日本の稲作はピンチ

異常気象

本校でも前年度より

今年の**猛暑**

10%以上 収量減

水田生物種の減

生物多様性の危機

本校は希少種**ナゴヤダルマガエル**の生息地

環境保全を重視した稲作はできないか

2. 「SDGsアクション」 アイデアと「目標」



田んぼへの理解者が増える

稲わらビジネス
マッシュルーム・籾殻燻炭
稲わらの販売

保全活動

生物
多様性

生き物に優しい
田んぼの米をアピール

保全型稲作の確立

希少種

ナゴヤダルマガエルの住処をつくる



15-5

籾殻を利用

稲わらを利用

生産後の堆肥
は水田へ

9 資源の効率的な活用 (9-4)
レンコン炭作りの技術を応用

稲わら堆肥で
マッシュルーム生産

地力の向上



2-4

新たな
付加価値



12-5
12-8

気候変化に
負けない米作り

資源循環

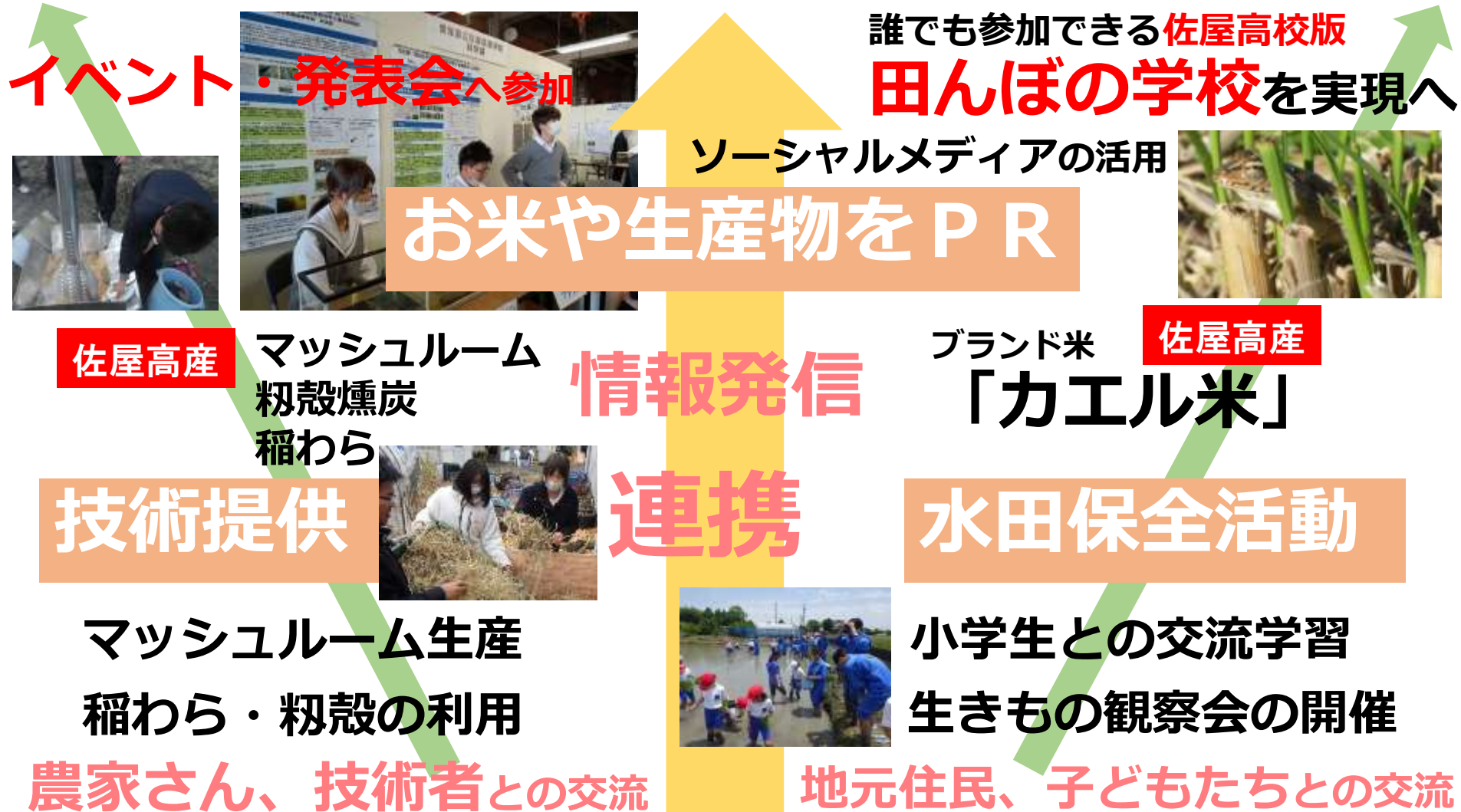
稲わらの
直接販売も

昔からの技術を新たに革新

3. 「SDGsアクション」を広める方法



田んぼへの理解者が増える



4. 「SDGsアクション」が広がるとどう変わるのか



田んぼへの理解者が増える！



お米の消費拡大！
農家の収入UP！



マッシュルーム生産



籾殻燻炭生産



ナゴヤダルマガエル保全

「カエル米」・稲わらビジネス

稲作に興味を持つ人が増える！

お米に関心を持つ人が増える

田んぼに興味を持つ人が増える

農業に興味を持つ人が増える！

自分で栽培したいと考える人が増える

農地を守ろうと考える人が増える

水田保全活動

環境に興味を持つ人が増える！

生物に関心を持つ人が増える

環境を守ろうと考える人が増える

5. 探究学習を通じての心の変容



<活動前>

昨年からのメンバー



- ・昨年度のレンコン炭で学んだ経験を基に、高校生でできることを真剣に考えた。
- ・SDGsの考え方をどのように後輩に伝えてこの取組を行うか考えた。

<活動後>



- ・まだこの取組は途中段階であるが、必ず社会に反映できる取組であると自信がついた。
- ・後輩に伝えるということは、広く人々に伝える行動に繋がることを強く意識することができた。

今年からのメンバー（1年生）

- ・先輩たちが取組を始める前から、構想づくりを練っている姿を見て、自分たちができるのか不安であった。
- ・田んぼに落ちている稲わらを見ても何も思わなかった。
- ・労力がかかる取組にプレッシャーを感じていた。



- ・先輩が「誰にでもできること」を実践すると言っていた意味がよく分かった。1年生でもできることは、みんなができることに繋がる！
- ・アイデアひとつで捨てられるものが新しく変化することが分かった。
- ・取組内容をまとめていると、達成感を感じてきた。仲間や理解者とのつながりは大切である。